講義名	対1)教養特講Ⅰ（東南アジアへのいざない）					授業形態	
担当教員	大西　啓司	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 ５時限				
		単位数	2	履修開始年次	１年生	ナンバリング	

主題と概要

現代の日本に於いて、東南アジアはより身近な存在になってきました。街中にはタイ料理、ベトナム料理、インドネシア料理店が見られることはもはや珍しくなく、観光先としても東南アジアはとても人気です。また、東南アジア各国からも留学、観光等で多くの人々が日本を訪れるようになっています。このように、現在では日本と東南アジア間の交流はとても活発になっています。両地域間の交流が活発になっている今だからこそ、我々は東南アジアについての理解度を深めていく必要があるのではないでしょうか。

東南アジアは、言語・民族・宗教の面から見て世界有数の複雑さを持った地域と言えます。これは、この地域が歴史上、東西文明の重要な結節点となり、人とモノの流出入が不断に行われていたからです。東南アジアは、「中国」と「インド」両文明の狭間に存在し、「両文明を受け身に受容してきた世界」というイメージを持たれてきた時代があります。しかし、東南アジアは外来の「中国的」、「インド的」諸要素を主体的に選択・受容し、独自の歴史的発展を遂げてきたことが現在明らかになってきています。故に、外的世界の影響を受けた「他律的世界」としてではなく、「自立的世界」として東南アジアを見つめ直すことが現在求められています。

東南アジアという複雑な地域の文化・宗教・歴史的背景を知り、東南アジアへの理解を深めていくことは、今後も更に密接になっていくであろう日本―東南アジア間の交流に於いても必ず役立つものとなるでしょう。また、東南アジアという異なった世界について学びを深めていく中で、私たちが住む日本の文化・宗教・歴史などの特異性、普遍性などに気づくことも出来るのではないでしょうか。

東南アジアを学ぶことにより、日本について更に深く知ることが出来るはずです。本講義では、東南アジアに関する画像、動画資料を豊富に使用していくことで、なるべく目と耳で東南アジア世界を身近に感じながら、知見を深めていくことを目指したいと思います。

到達目標

① 「東南アジア」という言葉と、その地理的概念を具体的に文章で説明することが出来る。
② 東南アジアに於ける歴史、文化、宗教の状況を文章で説明出来る。
③東南アジア諸国の政治体制を理解し、説明することが出来る。
④東南アジアが現代抱えている問題が如何なるものか理解し、論述出来る。

提出課題

各講義中に時間を設けて、講義内レポートを作成してもらいます。また、１～２回程度レポート課題を課します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

講義内に於いて、講義内レポートを講評します。

評価の基準

講義内レポート等による平常点(40%)と期末試験（60%）により評価します。

履修にあたっての注意・助言他

講義に臨むにあたって、予備知識は特に必要ありません。ただし、授業中に紹介する参考文献などを読んで、レポート課題、期末試験に臨む必要があります。

教科書

参考図書

その他

授業中に適宜資料を配布します。

授業計画

［第1回］　イントロダクション
［第2回］　東南アジア史概観
［第3回］　インドと東南アジア
［第4回］　中国と東南アジア
［第5回］　東南アジアに於ける宗教
［第6回］　東南アジアと仏教
［第7回］　東南アジアとイスラーム
［第8回］　文化で見る東南アジア
［第9回］　東南アジアの文字（1）チューノム
［第10回］　東南アジアの文字（2）インド系文字
［第11回］　言語から見る東南アジア（1）大陸部
［第12回］　言語から見る東南アジア（2）島嶼部
［第13回］　東南アジア諸国の政治体制
［第14回］　東南アジアのかかえる問題―「ロヒンギャ」問題―
［第15回］　まとめ

※一時的に通学困難になった場合は、対面授業の中で対応します。オンデマンド授業への移動はしません。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各回指定する内容について、予習2時間、復習2時間程度が必要です。各講義で指定する内容について予習を２時間程度、講義内容について２時間程度復習し、要点をまとめておいて下さい。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本学のディプロマ・ポリシーである、収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することが出来る情報分析力を養います。また、生涯を通じて学ぶにあたっての知識的基盤を築くため、社会経済環境の変化に応じた教養を養うことを目指します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

一時的に通学困難になった時は対面授業の中で対応し、オンデマンド授業への移動はしません。